

植物多様性センターの「はだかの冬芽」

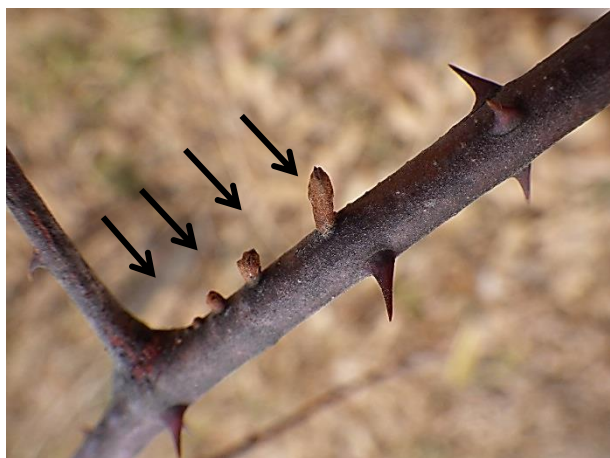
落葉樹の冬芽の多くは、葉の変形したうろこ状のもの（芽鱗）に包まれて、寒さや乾燥から保護されて冬を越します。ところが冬芽の中には、春に伸びる新芽そのものが裸のまま冬を越す種類があります。それが裸芽（らが）です。裸芽の多くは葉の表面にたくさんの毛を密生させて寒さに耐えます。学習園で今見られる裸芽をいくつかご紹介しますので、形や毛の質感、このあとどんなふう伸びてくるかを観察してみてください。



オニグルミ: 動物の顔に見える葉痕と裸芽のヘアスタイル



アカメガシワ: 春の新葉は名前のとおり真っ赤になる(円内)



ジャケツイバラ: 1か所に縦に複数の芽をつける変わりもの



ハクウンボク: 葉柄内芽から葉柄がとれて裸芽となる(円内)